

農業を通じて
地域とともに未来を耕す



Midrist Vol.14

たちばなファーム 橘芳美さん (富山県富山市)

北陸自動車道富山西インターを下りて数分
のどかな田園風景が広がる丘陵地の一角にその
農場はあった。

土木・解体・リサイクルを主力とするタチバ
ナグループのアール・タチバナ(株)が新たな
挑戦として経営する、たちばなファームである。
取材に訪れた10月下旬は秋晴れの下、仕掛け
人であるアール・タチバナ(株)取締役の橘芳
美さんほかファームの運営に携わる皆さまが農
場の一角に建つおしゃれなコテージ風のトレイ
ラハウスの拠点施設へ快く案内してくれた。

たちばなファームを立ち上げたのは4年前。
アール・タチバナ(株)を含むタチバナグ
ループは、「土から生まれたものは、土に還
す」という理念の下で資源循環に取り組んでい
る。定年延長の時代の中で、長年勤めた社員が
100歳まで末永く働けるような安心・安全な
部署は何かと模索していた時に、土に触れなが
らおいしい食べ物を生み出す部署をつくろうと
いう発想から、農業分野への参入を決めた。

まず課題となったのは、農業経験がまった
くなかったこと。そのため、知人の紹介で知り
合った富山県職員OBが個人で所有する農地を
借りて、橘さんが約2年半にわたり、直接指導
を受けながら野菜を数品目栽培し野菜づくりの
ノウハウを学んだ。

次に課題となったのは、農地の確保だった。
民間企業は原則農地を所有することができない。
そのため、同社の現会長が個人で小さな農地を
所有していたことから、この農地を利用して自
社農園を立ち上げることとなった。

一方、現在のたちばなファームの拠点施設が
あるほ場は、4、5年前までは地権者十数名が
所有する雑草だらけの耕作放棄地だった。この
ほ場を前述の会長が個人で購入したことで、農
地の確保につながった。その農地と先に所有し
ていた農地と併せて、アール・タチバナ(株)
が無償で借り受け、農業生産を開始した。



たちばなファームでは、農薬使用を最小限に抑え、化
学肥料は一切使用しない。代わりに、グループ企業のア
イオーティカーボン(株)が製造する土壌改良資材(バイ
オ炭)や有機肥料の『里山ぼかし』などを使用し、環境
への負荷を低減させた持続可能な循環型農業を実践して
いる。

現在のほ場面積は、全体で2ヘクタール程度。

栽培品目は、これまで試行錯誤を繰り返しながら、現
在、野菜は、アスパラガス、じゃがいも、ほうれんそう、
落花生、さつまいも、ルッコラ、さといも、にんじん、
かぶ、にんにく、たまねぎ、サトイモなど、10品目を超
えるまでに拡大し、その他に牧草、花き、薬用作物の
シヤクヤクを栽培している。(このうち、じゃがいも、
さつまいも、にんじん(令和7年12月19日時点)は、農
林水産省の環境負荷低減に取り組んだ農産物に表示でき
る「みえるらべる」(※)に登録)

※環境負荷低減の取組が見える化するための等級ラベル





の験も
生体す
落花
収穫さ
で



また、牧草は近隣の畜産農家へ家畜のえさとして提供している。逆に、たちばなファームもその農家から牛ふん堆肥を購入して土づくりに活用しており、耕畜連携の取組にも繋がっている。

山市の地場もん屋総本店のほか、とやま生活協同組合などに出荷している。

また、牧草は近隣の畜産農家へ家畜のえさとして提供している。逆に、たちばなファームもその農家から牛ふん堆肥を購入して土づくりに活用しており、耕畜連携の取組にも繋がっている。

これらの栽培については、常時2名がファームの運営に従事して対応しており、作付けや除草、収穫などの繁忙期には、新たに数名の社員やアルバイトも加わって対応している。



さといも
収穫作業中



るなど、農場内にあるものはすべてが環境に配慮されたものとなっており、サーキュラー農園をコンセプトにファーム全体が自然と共生していく考えの下で設計・運営されている。

このような環境の下で、収穫体験や試食会の開催、地元民間企業の研修場所としても活用されることで、一般消費者を含む地域の方との交流の場にもなっており、たちばなファームが進めている取組への理解も進んでいる。

かぶ
↓

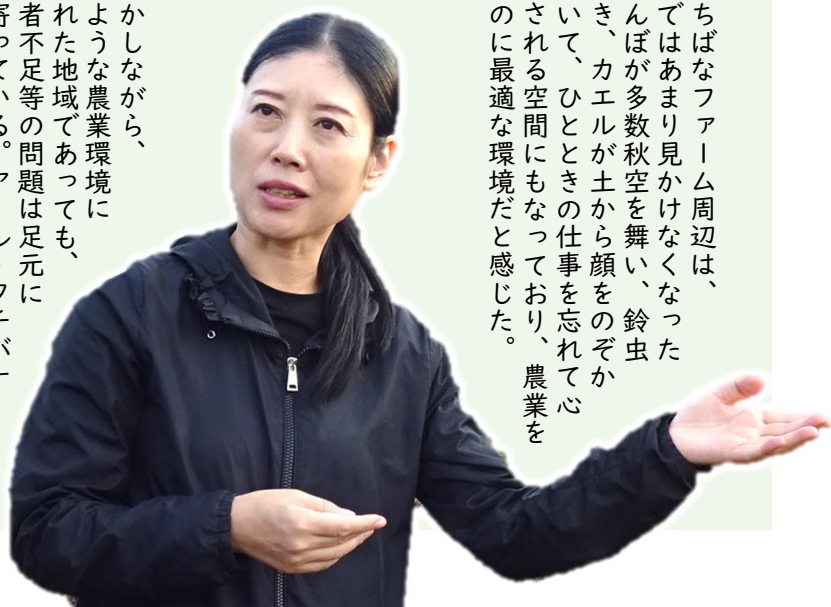


語って
と橘さんは
感じている
かなければ
いかなければ
ならないと

現状では、栽培技術と人手が足りないため、その申し出に添えていくことができないが、将来的に体制が整ってくれば、その声に耳を傾けていかなければならないと感じていると橘さんは語ってくれた。

しかしながら、このような農業環境に恵まれた地域であっても、後継者不足等の問題は足元に忍び寄っている。アール・タチバナ(株)が農業参入したことを聞いて、後継者がいない農業者からは、うちの農地も使用して農業をしてくれないかとお願ひされることもあるそうだ。

たちばなファーム周辺は、最近ではあまり見かけなくなった赤とんぼが多数秋空を舞い、鈴虫が鳴き、カエルが土から顔をのぞかせていて、ひとときの仕事を忘れて心が癒される空間にもなっており、農業を行うのに最適な環境だと感じた。





最後に今後の目指す姿について橘さんに聞いたところ、
「土のソムリエと言われるくらい、自分の力で土づくりに取り組み、これまで以上に環境にやさしい農園づくりを進め、将来は有機栽培を目指していきたい。また、ワークショップや収穫体験などいろいろな形で交流することで命の源である食の大切さ感じてもらいたい。このような取り組みを通じて持続可能な地域づくりに貢献していきたい。」
と語ってくれた。
「たちばなファームの挑戦はまだ始まったばかり。今後の取組を大いに期待したい。」



Writer: 長田・奥秋・附田

DATA【たちばなファーム】

事業部長: 橘 芳美

住所: 富山県富山市池多1745番地の1

農法: 化学肥料不使用(有機ぼかし肥料使用)

品目: アスパラガス、じゃがいも、ほうれんそう、落花生、さつまいも、ルッコラ、さといも、にんじん、かぶ、にんにく、たまねぎ、サトイモなど



<https://www.tachibana-farm.jp/>

